



# もいおかYMCA ニュース

発行日 2001 5/10



<連載企画全5回スペシャル>

## 翔君のYMCAタイ農村ワークキャンプ旅行記

③

3/15、ついにこのキャンプの最大の目的地である、ワーク地となる「Blessing Home(山岳民族ラフ一族の子供たちが実家の近くにはよい学校がないため、わざわざ、町へおりてきて学校へ通うために共同生活をしている教会が中心となって運営している施設。)」に入った。ここでは約30名ほどの子供たち(小学～高校生)が男女1棟ずつのコンクリート造りの小屋で共同で生活している。第15回タイワークのワーク内容はここに集会所を建てるという事だ。骨組みは出来ていたが、周りの壁やドアなどをつくるのが自分たちの仕事だった。タイムリミットは21日。この日からみんなの目は変わった。

でも、このワークキャンプは「ワーク」だけが目的ではない。「ワーク」と同じ位、いやそれ以上に大切なのは「現地の人々との交流」だ。それを目的としたプログラムもいろいろと組まれた。まず、16日の夜に自分たちが泊まっているCCF(職業訓練センター)にBlessing Homeの人々を招いて行った「Japanese Night」。約50人ぐらいの子供が来てくれた。日本側の主催で、日本食(豚汁・ヤキソバ・白玉・フルチェ・寿司)を作ったり、「おはロック」や「マイムマイム」「ジェンカ」などの日本のダンスを紹介した。とくに「おっはー」は大人気だった。翌日からの挨拶がみんな「おっはー」だった。そして19日の夜に行った「キャンプファイヤー」。恵理子リーダーを中心にみんなが楽しめるものだった。21日の「Thai Night」。ラフ一族の伝統的な踊りや民族独特の表現が素晴らしかった。日本側のメンバーが積極的に融合しようとする場面が印象的だった。もちろん、この他にもワーク中に遊んだり、話したりサッカーをしたりバレーをしたりセパタクローをしたりと様々な場面で交流を図ることができた。



### 地の塩

**We build strong child,  
strong family, strong community.**

アメリカのYMCAのホームページを開くとこのYMCAでも、冒頭に標記のキャッチフレーズが掲げられている。「私達は、強い子ども、強い家族、強い地域を作り上げます。」という意味だ。

小・中学校の校長先生とお会いしてお話をお聞きする機会があるが、多くの先生がたから地域の大切さを教えていただいた。ある中学校の校長先生は、3年間かかって、町内会の会合に出向き、地域の理解を得、3日間、全校生徒を学区内の町内会に預けることを昨年から実施している。ある町内会では、草むしりや、ゴミ拾いのツボランティア、ある町内会では、陶芸の得意なお年よりがいて、陶芸教室。それぞれの町内会が生徒を預かるため、知恵を絞ってカリキュラムを考えた。

青少年の犯罪や、学校崩壊とマスコミで多く取り上げられて、私も3人の息子の親として、子育てはこれでいいんだろうかと時々不安になったりするが、本来子どもは、家庭と学校の往復によって育つのではなく、家庭、学校、地域という3つのセクターが相互に絡み合う中で、様々な人びとに出会い、その出会いの中で成長していくものだと思う。

首相の私的諮問機関「教育改革国民会議」が最終報告で学校教育で奉仕活動を義務化する提案がなされ、その是非が論議されているが、このことは『地域で子どもを育てる』ことを考える良い機会だと思う。

5月27日(日)、もいおかYMCAは、岩手県立大学の渡邊一雄先生をお招きして「学校教育とボランティア」というテーマで教育講演会を開催する。アメリカでボランティア体験を多くなされてきた渡邊先生のお話はとても説得力がある。是非、多くの方々に参加していただきたい。(演)



もいおかYMCA教育講演会【なべさんのボランティア講座】

### 学校教育とボランティア

期日：5月27日(日)

時間：午後2時～午後4時

場所：高校教育会館(盛岡市志家町11-13)

参加費：無料

※ お電話でお申し込みください。

090-7525-0304



H.S